



**2015年3月期 第1四半期
決算補足説明資料**

2014年8月6日

アニコム ホールディングス株式会社
(証券コード:8715)

1. 2015年3月期 第1四半期 決算ハイライト

業績

■ 経常収益 : 5,163 百万円 (前年同期は 4,394 百万円 17.5%増)

■ 経常利益 : 379 百万円 (前年同期は 113 百万円 233.9%増)

- ・ペット保険保有契約数は順調に増加。また、損害率・事業費率ともに消費税の影響を受けるものの、想定以上に改善が進み、ペット保険引受事業の収益構造は順調に良化
- ・資産運用収益は 98百万円 (前年同期比 226.2%増)

損害率 (E/I)

■ 66.7% (前年同期は 69.0%。2.3pt 改善。5月8日発表予想 68.1%を1.4pt 下回る)

- ・90%プラン販売停止や査定強化、引受審査強化等の損害率改善施策により、改善が着実に進む

事業費率 (既経過保険料ベース)

■ 28.7% (前年同期は 30.5%。1.8pt 改善。5月8日発表予想 30.2%を1.5pt 下回る)

- ・売上増加による規模の経済効果や業務効率の継続的な改善により、事業費率も順調に良化

※ 前期第4四半期から、従来開示していた「正味事業費率」(損保事業費÷「正味収入保険料」)よりも期間損益計算結果に近い事業費率として、「既経過保険料事業費率」(損保事業費÷「既経過保険料」)にて算出された数値を事業費率として開示しております。

その他 定性情報

■ マザーズから 東証一部へ市場変更 (2014年 6月10日)

■ 限度日数付き新商品の発売を決定 (2014年11月より)

■ 保険料の改定を実施。継続率への影響は1.5pt前後。今後、段階的に損益改善に寄与する見込み

2. 2015年3月期 第1四半期 連結業績概況

(百万円)

主な勘定科目の内容と増減理由

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	対前期 増減率
経常収益	4,394	5,163	17.5 %
保険引受収益	4,327	5,012	15.8 %
資産運用収益	30	98	226.2 %
その他経常収益	36	52	44.2 %
経常費用	4,280	4,784	11.8 %
保険引受費用	3,208	3,585	11.7 %
(正味支払保険金)	(2,427)	(2,844)	17.2 %
(損害調査費)	(156)	(171)	9.9 %
(諸手数料及び集金費)	(255)	(296)	16.2 %
(支払備金繰入額)	(232)	(101)	△ 56.5 %
(責任準備金繰入額)	(136)	(171)	25.4 %
(うち未経過保険料)	(248)	(335)	35.0 %
(うち異常危険準備金)	(△111)	(△163)	- %
資産運用費用	13	4	△ 68.1 %
営業費及び一般管理費	1,010	1,148	13.7 %
その他経常費用	48	46	△ 4.6 %
経常利益	113	379	233.9 %
四半期純利益	68	251	270.1 %

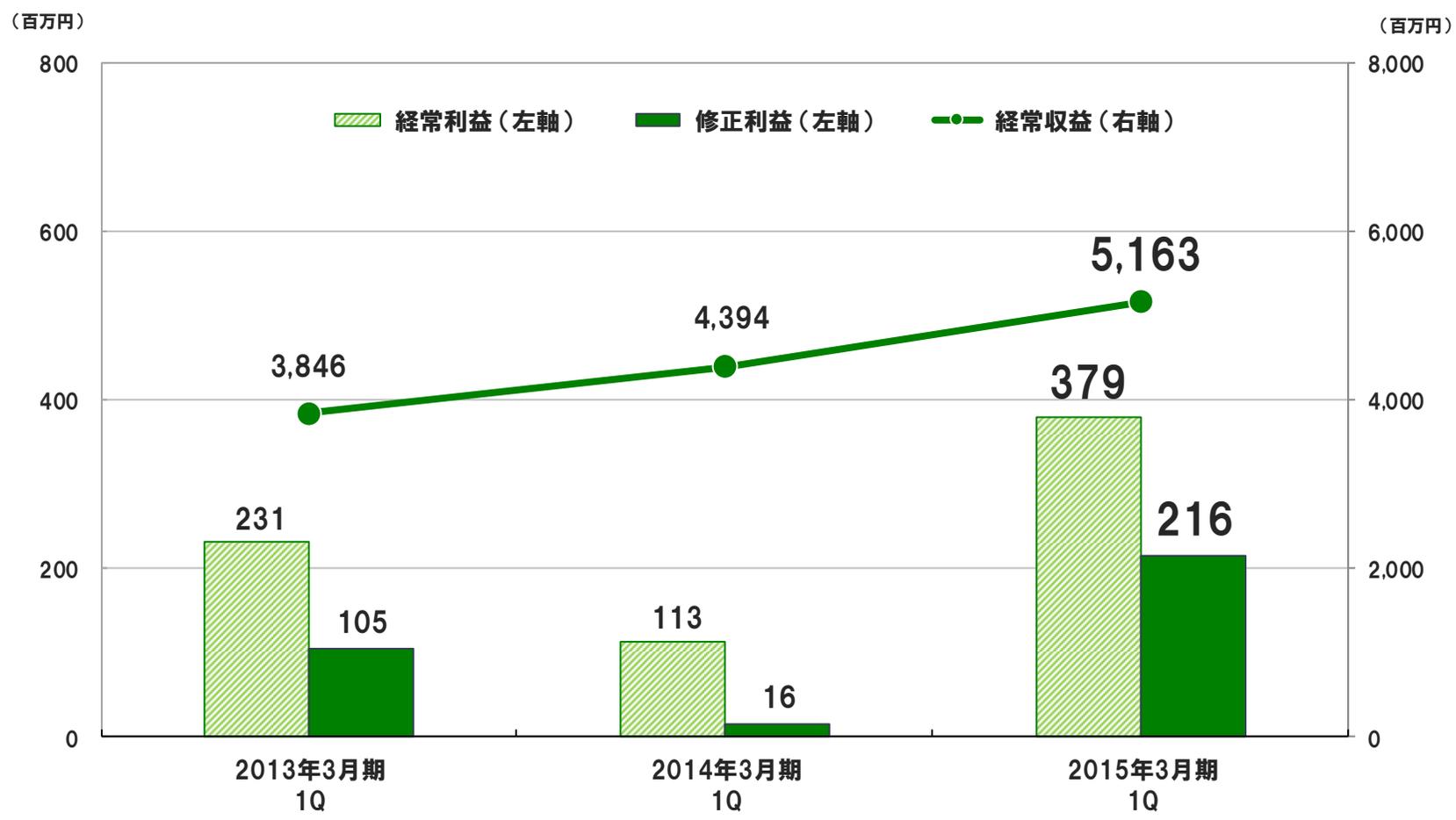
既経過保険料	4,079	4,677	14.6 %
発生保険金 (損害調査費含む)	2,816	3,117	10.7 %
E/I 損害率 ①	69.0 %	66.7 %	△ 2.3 pt
既経過保険料ヘゝス事業費率 ②	30.5 %	28.7 %	△ 1.8 pt
コンバインド・レシオ (既経過保険料ヘゝス) ①+②	99.5 %	95.4 %	△ 4.1 pt

- ① 保険引受収益 (詳細は「5. 経常収益のパラメータ」ご参照)
 - ・新規・継続ともに計画通りに契約獲得
 - ・6月の保険料改定による継続率低下は1.5pt程度(実績数値)にとどまる
 - ・両者が相俟って、今後は段階的に収益を押し上げる見込み
- ② 資産運用収益
 - ・主に国内株式・国内REITにより安定的に利回りを確保
- ③ 正味支払保険金
 - ・保険金支払体制の継続的な強化により、保有契約の増加による保険金請求の増加に対しても迅速な支払が達成され、支払保険金が増加
- ④ 損害調査費
 - ・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加
- ⑤ 諸手数料及び集金費
 - ・主に代理店に対する手数料。保有契約数の増加に伴って増加
- ⑥ 支払備金繰入額
 - ・将来の保険金支払に備えるための繰入額
 - ・支払備金(B/S)期末残高一期首残高で算出
 - ・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる
- ⑦ 未経過保険料繰入額
 - ・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ
 - ・繰入額は期末残高一期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる
 - ・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料(≒発生ベースの保険料)となる
- ⑧ 異常危険準備金 (詳細は「7. 異常危険準備金」ご参照)

※ 上記比率の詳細説明は【APPENDIX2-1】主要な経営指標の推移にて記載しております

3. 経常収益・経常利益・修正利益の四半期推移

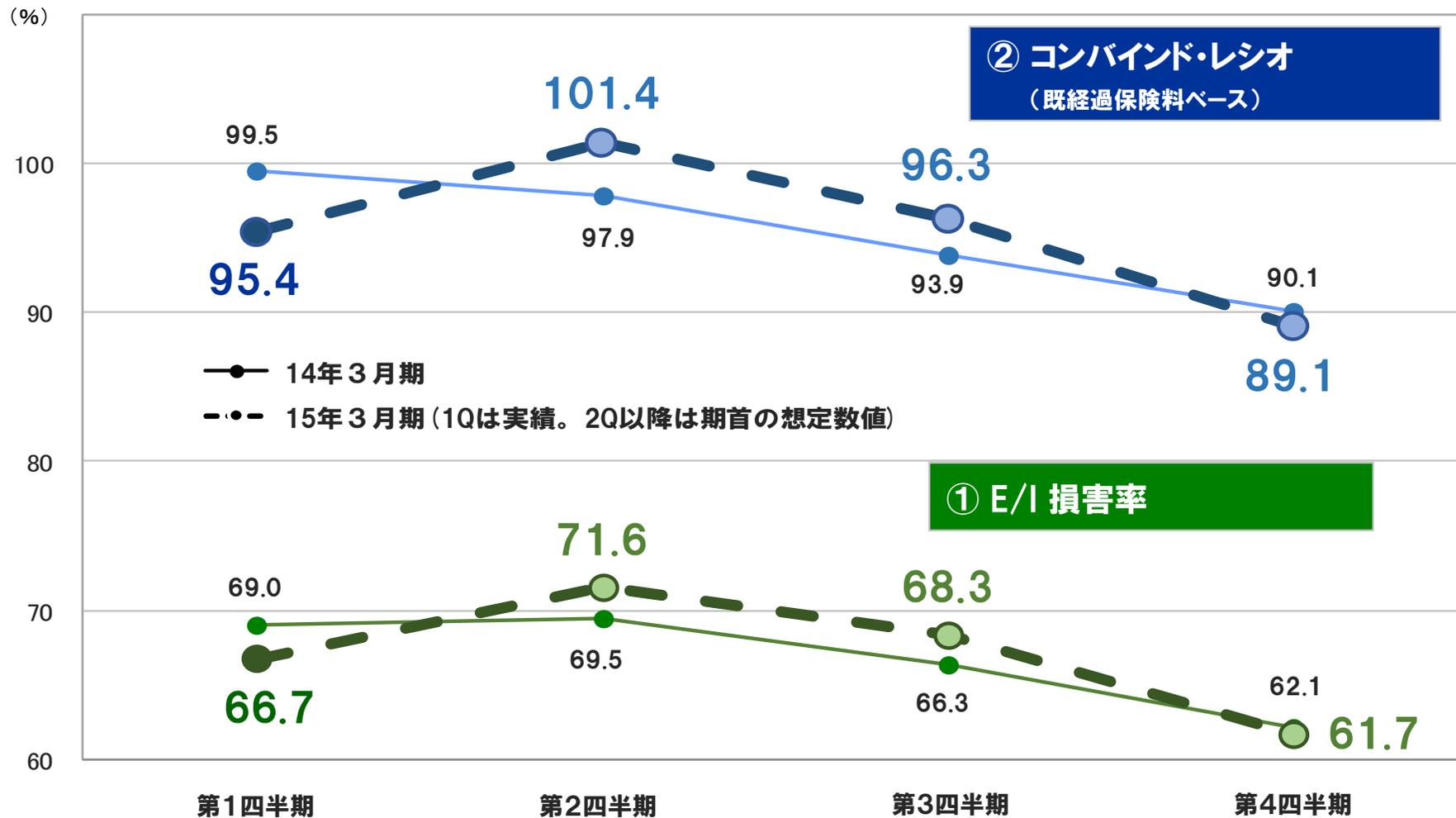
(注) 修正利益：ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。
 経常利益±異常危険準備金影響額±保険引受以外の営業費・一般管理費±
 資産運用収支±その他収支にて算出。



- ・ **経常収益は**、保有契約数の増加のほか資産運用や子会社の貢献により、**前期比 14.2%増→17.5%増**
- ・ 14年3月期1Qは90%商品の影響を受けたが、**15年3月期1Qは影響がゼロとなり、利益が大幅改善**
- ・ ペット保険引受事業の実質的な利益である**修正利益も**、異常危険準備金戻入益や資産運用収入、子会社収益等により**経常利益よりも低いものの、順調に良化**

4. E/I損害率・コンバインド・レシオ（既経過保険料ベース。注） 四半期推移・前年同期比較

（注）コンバインド・レシオ（既経過保険料ベース）：E/I損害率＋既経過保険料ベース事業費率で算出した利益指標。12ページ【APPENDIX2-1】の③に相当。



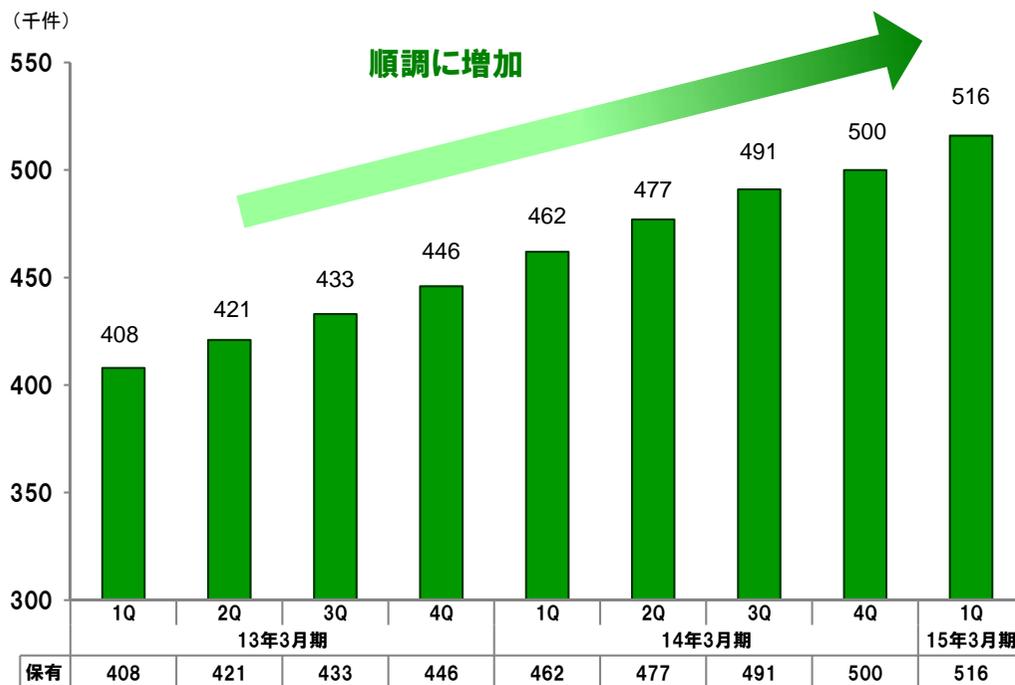
・損害率改善施策の効果等により、E/I損害率は前期第2四半期以降、前年同期を下回る（上表①。詳細は「6. 経常費用のパラメータ」ご参照）

・損害率のみならず事業費率の改善も進んでいることから、コンバインド・レシオも順調に改善（上表②）

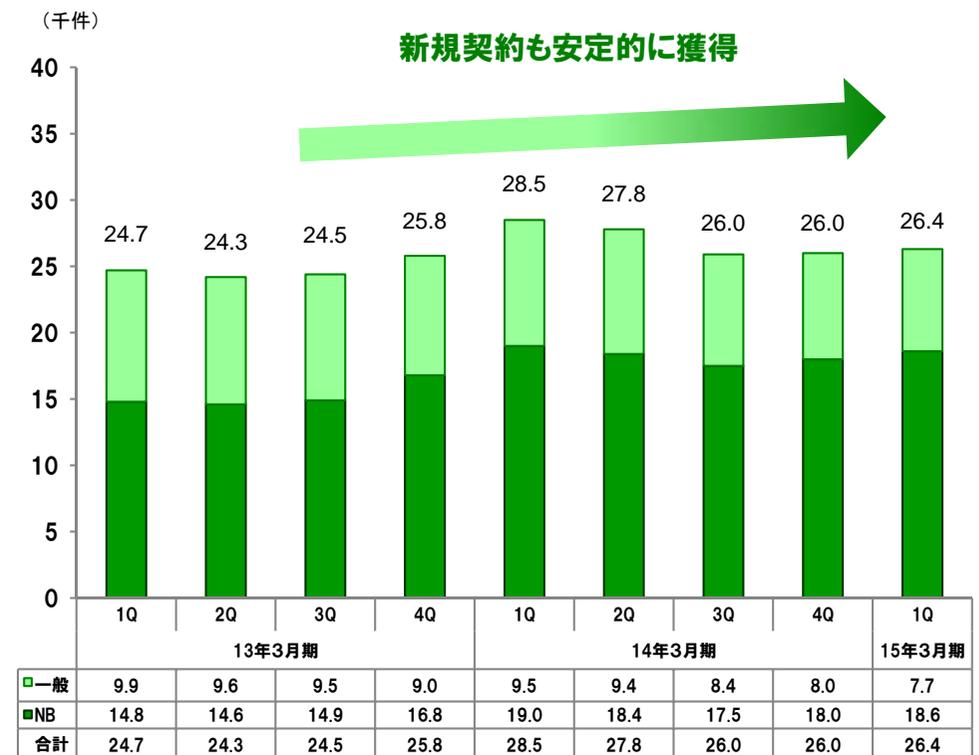
5. 経常収益のパラメータ（ペット保険保有契約数/新規獲得件数の推移）

- ・保有契約件数は順調に増加。当期末には55万件を突破する見込み
- ・新規契約獲得も計画通り推移
- ・損害率が高い傾向にあったチャネルの引受体制強化を行ったため一般新規契約数は減少したが、計画通りに損害率が改善
- ・50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ2:1で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが5割超

■ 保有契約件数の四半期推移

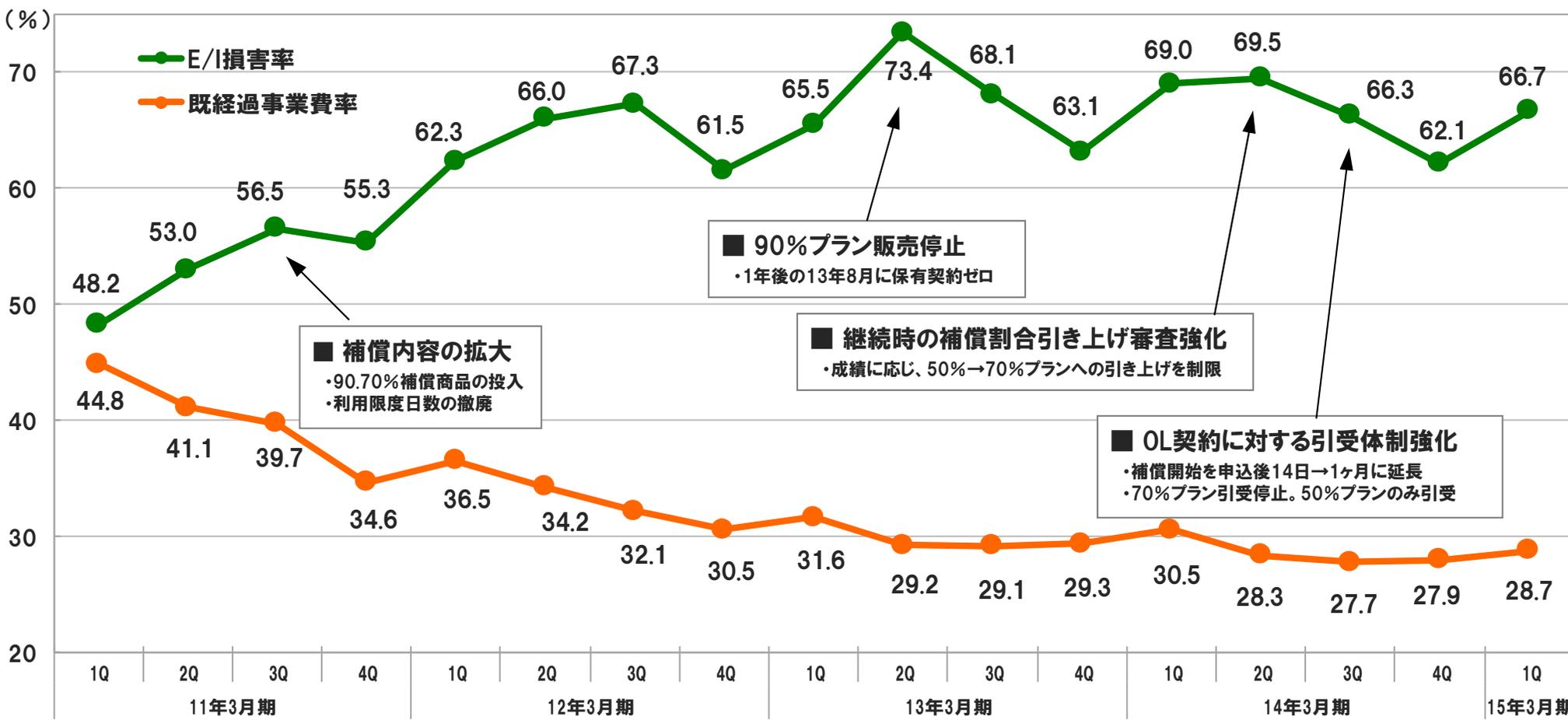


■ 新規契約獲得件数の四半期推移



6. 経常費用のパラメータ (損害率(E/I)・既経過保険料ベース事業費率の四半期推移)

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
 注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費 ÷ 既経過保険料)を表しております。



- ・ E/I損害率は、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Q・4Qに改善する傾向。現在は各種損害率改善施策効果の発現により前期2Q以降対前年同四半期比で改善を続けており、今後も緩やかな改善を見込む。
- ・ 事業費率は、規模の経済効果に加え経費管理の徹底、効率化に向けた取り組み等により前年同四半期比で改善が続く傾向に変化なし。今後も営業拡大施策等により若干の変動を見込むものの、30%を下回る水準で安定した推移を見込む。

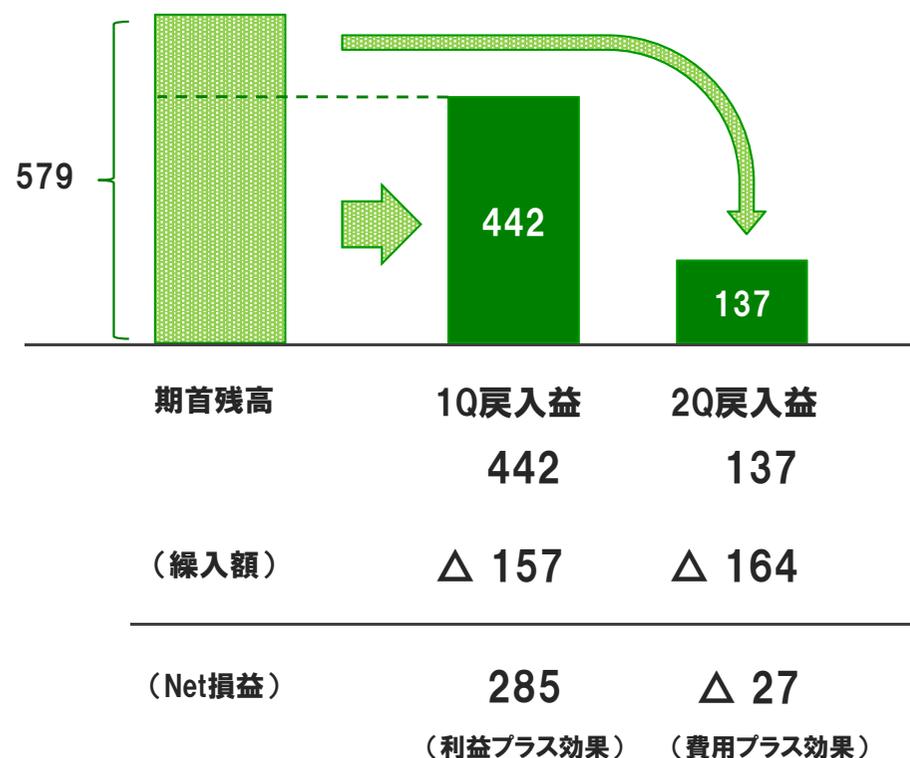
7. 異常危険準備金

- ・ 異常危険準備金は巨大リスク等に備えて積み立てが制度化されているものであり、**収入保険料の3.2%が毎期費用計上**される
- ・ **正味損害率が50%を超えると取崩し**が発生し、正味損害率が50%となる水準まで取崩しが行われるが、**取崩し額は前期末(=当期首)残高が限度**となる
- ・ 15年3月期1Qは、正味損害率が計画以下となったことから**取崩し額が当初想定以下**。残額は2Qに取崩しを行う見込み

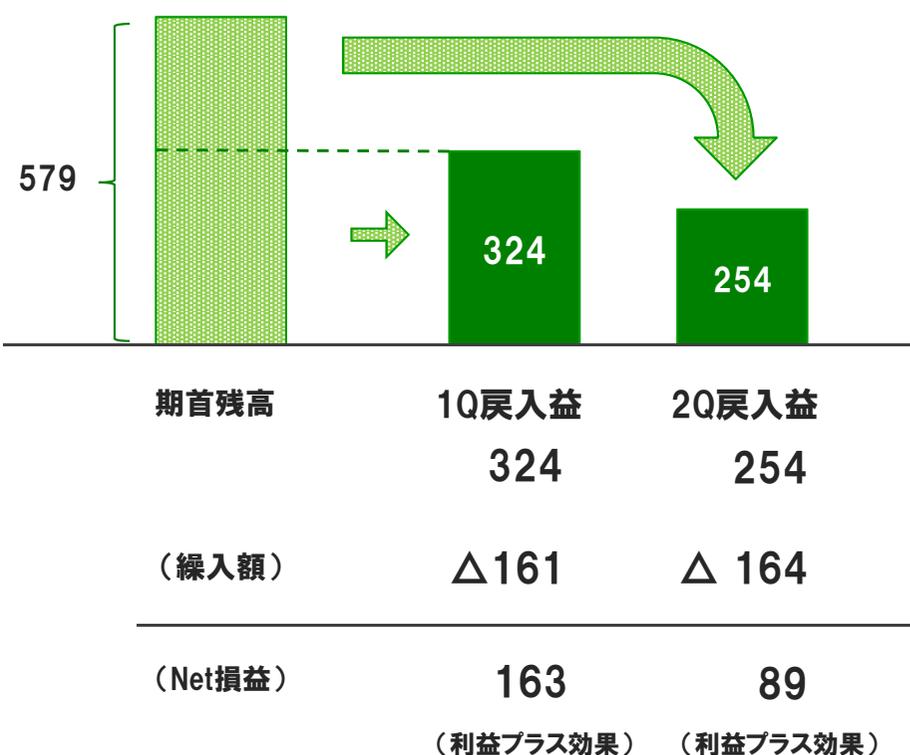
【異常危険準備金期首残高の当期取崩し及び損益への影響】

(単位:百万円)

■ 期首想定



■ 1Q実績



8. 連結貸借対照表サマリー

(百万円)

	14年3月期	15年3月期 第1四半期	増減率
資産合計	18,634	19,358	3.9 %
現金及び預貯金	4,454	4,812	8.0 %
有価証券	11,367	11,952	5.1 %
有形固定資産	118	150	26.8 %
無形固定資産	477	460	△ 3.7 %
その他資産	2,112	1,959	△ 7.3 %
うち保険業法第113条繰延資産	484	444	△ 8.3 %
繰延税金資産	116	38	△ 66.6 %
貸倒引当金	△ 13	△ 15	- %
負債合計	10,385	10,808	4.1 %
保険契約準備金	8,768	9,041	3.1 %
うち支払準備金	1,291	1,392	7.8 %
うち責任準備金	7,476	7,648	2.3 %
その他負債	1,520	1,708	12.4 %
賞与引当金	86	46	△ 46.5 %
価格変動準備金	10	12	18.8 %
純資産合計	8,248	8,550	3.7 %
株主資本	8,306	8,558	3.0 %
うち資本金	4,282	4,282	- %
うち資本剰余金	4,172	4,172	- %
うち利益剰余金	△ 147	104	- %
うち自己株式	△ 0	△ 0	- %
評価・換算差額等	△ 57	△ 7	- %
負債・純資産合計	18,634	19,358	3.9 %

主な勘定科目の内容と増減理由

① 有価証券

- ・主に国内株式・国内REIT・CRF等にて運用

② 保険業法第113条繰延資産

- ・2017年3月期まで毎期1.6億円の均等償却予定

③ 支払準備金

- ・将来の保険金支払に備えて計上される未払金
すでに請求を受けている①普通支払準備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上
- ・基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向

④ 責任準備金

- ・未経過保険料である①普通責任準備金(7,232百万円)と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金(416百万円)を計上
- ・普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%~40%前後が残高として計上される傾向
- ・異常危険準備金は「7.異常危険準備金」ご参照

9. 連結キャッシュ・フローサマリー

(百万円)

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	485	575
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 982	△ 217
財務活動によるキャッシュ・フロー	23	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	△ 472	358
現金及び現金同等物の期首残高	1,283	1,301
現金及び現金同等物の四半期末残高	810	1,659

- ・コンバインド・レシオの改善と保険契約の伸長が相俟って、安定した営業キャッシュ・フローを計上
- ・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール
- ・財務キャッシュ・フローはリース債務の支払

【APPENDIX 1】経営パラメータの推移（損保単体）

	① 14年3月期 第1四半期	② 14年3月期末	③ 15年3月期 第1四半期	③-① 対前年同期 増減(率)	③-② 対前年度末 増減(率)	15年3月期 (前回開示予想)
保有契約数 (※1)	462,343件	504,969件	516,618件	-	11,649件 (2.3%)	555,404件
新規契約数 (※2)	28,599件	109,170件	26,398件	△ 2,201件 (△ 7.7%)	-	107,500件
平均継続率	88.6%	89.3%	88.8%	-	△ 0.5pt	87.9%
対応動物病院数	5,408病院	5,599病院	5,630病院	-	31病院 (0.6%)	5,839病院

- 堅調な新規契約と高水準の継続契約が相俟って、**保有契約数は着実に増加。当期末に55万件突破見込み**
- ペットショップ代理店を中心に**想定通りの新規契約を獲得**
対前年同期比でのマイナスは、損害率改善施策のひとつとしてオンライン契約の引受審査を強化していること等によるものであり、同チャネルからの獲得数は減少しているが、損益は確実に良化
- **平均継続率は**14年6月の保険料改定により実績値として1.5pt前後低下したが、1Q全体としては**88.8%**で着地
今後更改を迎える契約も同程度の低下を想定するものの、**通期では87.9%と高水準を想定**

【APPENDIX 2-1】主要な経営指標の推移（損保単体）

	前年同期比較		通期比較	
	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	14年3月期	15年3月期 (予想)
①E/I 損害率 …発生ベースの損害率 (正味支払保険金+支払備金増減額+損害調査費)/既経過保険料	69.0 %	66.7 %	66.7 %	67.3 %
②既経過保険料ベース事業費率 …発生ベース保険料(既経過保険料)に対する損保事業に関する事業費率 (諸手数料及び集金費+損保事業の営業費及び一般管理費)/既経過保険料	30.5 %	28.7 %	28.6 %	28.8 %
③コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース) …①+②	99.5 %	95.4 %	95.3 %	96.1 %
単体ソルベンシー・マージン比率	264.8 %	297.6 %	295.1 %	285.0 %

※1 既経過保険料は、「保険引受収益 - 未経過保険料繰入額(責任準備金繰入額の内訳)」にて算定

※2 ②における「損保事業の営業費及び一般管理費」は、連結損益計算書の営業費及び一般管理費に含まれる保険引受事業に関する費用

※3 従前開示していた経営指標は【APPENDIX2-2】に記載

【APPENDIX 2-2】従前開示していたその他の経営指標の推移（損保単体）

	前年同期比較		通期比較	
	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	14年3月期	15年3月期 (予想)
①W/P 損害率 …現金ベースの損害率 (正味支払保険金+損害調査費)/正味収入保険料	59.7 %	60.2 %	62.8 %	62.3 %
②E/I 損害率 …発生ベースの損害率 (正味支払保険金+支払備金増減額+損害調査費)/既経過保険料	69.0 %	66.7 %	66.7 %	67.3 %
③正味事業費率 …現金ベース保険料に対する損保事業費率 (諸手数料及び集金費+損保事業の営業費及び一般管理費)/正味収入保険料	28.8 %	26.8 %	27.3 %	27.1 %
④コンバインド・レシオ(現金ベース) …W/P損害率+正味事業費率 (①+③)	88.5 %	87.0 %	90.0 %	89.4 %
⑤コンバインド・レシオ(E/Iベース) …E/I損害率+正味事業費率 (②+③)	97.8 %	93.5 %	94.0 %	94.4 %

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部

東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル 2F

URL：<http://www.anicom.co.jp/>

